朝日地区水面利用計画（骨子案）

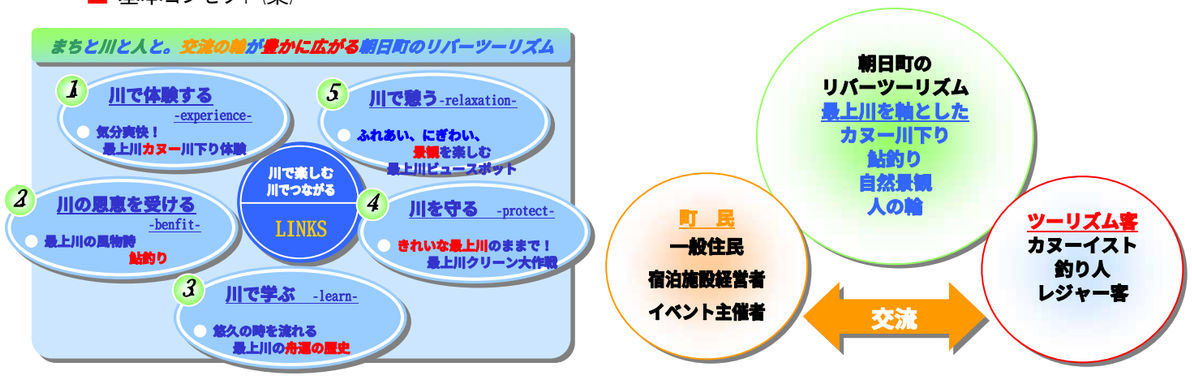
■ 朝日地区水面利用の基本的な考え方

朝日町を流れる最上川は、古くは舟運で利用され、最上川でももっとも激流のポイントを持っており、しばしば破舟事故も発生するほどの難所でした。しかし、かつての舟運の難所は、上流部特有の変化に富んだ流れと美しい景観があることから、現在は絶好のカヌースポットとなっています。

その親水空間は「朝日町のエコミュージアム」で地域資源（サテライト）の１つとして位置づけられていると同時に、国土交通省の「水辺プラザ整備事業」の対象区間としても位置づけられ、朝日地区におけるカヌー等の非動力船による水面利用を盛んにし、観光面での地域振興に寄与するような整備の実施が課題となっています。

このような背景から、朝日地区の水辺整備に際し、町の総合計画と整合を図りつつ、実際の整備内容及び整備後の利活用方策について、最上川の水面利用に深い関わりを持つ分野の方々のご意見を伺った結果、次のような基本コンセプトと基本方針が浮かび上がってきました。

■ 基本コンセプト（案）



■ 整備計画（骨子案）

方針１ カヌーは自然を満喫するスポーツ。過度な整備は行わず必要最小限の不便の解消を図る。（レジャーカヌー）
最上川の景観は地域の宝。過度な整備は避ける。（景観保全）

方針２ 雪谷・玉ノ井地区は、将来競技カヌー大会を開催することを考慮した拠点整備を行う。
（競技カヌー・地域活性化）

方針３ 町民・カヌー利用者・一般客それぞれの利用に配慮した整備を行う。（河川の平等な使用）

方針４ 釣り人とカヌー利用者のトラブルが起こらないような配慮を行う。（釣りとカヌーの兼ね合い）

【雪谷地区カヌーランド】



◇多目的広場の整備
- 入り口
- 駐車場 38 台
- カヌーハウス
- マナー看板
- 坂路

◇進入路
◇水面への坂道

【玉ノ井地区カヌーランド】



◇駐車場
- 進入路
- 駐車場 36～40 台

◇マナー看板
◇徒歩アプローチ

【雪谷・玉ノ井区間】



◇支障物対策
- テトラポッド
- 量水標柱

■ 利活用方策（課題骨子案）

課題１ 維持管理・運営上の課題

- ✧ 拠点整備にあたっては、整備後の維持管理をどのように行うかが課題となります。利用者・地元地域・施設管理者・河川管理者などの関係各機関の役割分担を明確にするとともに、ボランティアの活用や利用者主体のクリーンアップ作戦など、維持管理方策を講ずることが必要です。
- ✧ また、町管理の施設となると維持管理の費用創出が課題となるため、受益者負担による料金徴収のしくみづくりなどの検討が必要です。

課題２ カヌーランド利用者へのマナー周知に関する課題

- ✧ 拠点整備を行うとカヌー利用者の他に釣り客なども利用するようになります。カヌー愛好者は比較的マナー水準が高いといわれていますが、拠点整備にあたっては水面利用者全体のマナー向上も積極的に進めていく必要があります。
- ✧ 県のカヌー協会が協会員に推奨しているマナーが一般レジャー客には通じないこともあるので、地元地域の意向も踏まえながら、汎用化できるマナーを検討し、徹底していくことが必要です。

課題３ カヌー情報発信の課題

- ✧ 水面利用者が増加すると、増水情報やマナー情報、利用案内などカヌーに関する情報提供のみならず、関連するイベント情報や宿泊、食事処、お土産などの地域の情報を総合的に提供するしくみが必要となります。
- ✧ 現在、インターネットの利用者は全国で増加の一途をたどっており、これにともない WEB サイト（ホームページ）からレジャー情報を得る人々も多くなっていると考えられます。特に県外客の利用者増を図るのであれば、朝日町のホームページでこれら情報を総合的に発信することは重要であり、今後検討が必要です。

課題４ 朝日町民がカヌーで盛り上がるためには

- ✧ 朝日地区はカヌーによる川下りの絶好の流れとすばらしい景観を有しています。これら地域資源を活かし地域活性化を図っていくのであれば、まず町民自身が最上川への理解を深め、カヌーの楽しさを知ることが大切です。
- ✧ エコミュージアムセンターなどを活用し、川やカヌーの魅力発見の学習講座を開催したり、実際にカヌーに乗って川下りを体験したり、カヌーイベントを開催するなど、町民の理解度、盛り上がり度に応じた取り組みを進めていくことが必要であると考えます。